

令和7年度 第4回市民参加推進会議 議事録

1. 開催日 令和8年3月19日(木) 午前10時～午前11時10分

2. 開催場所 浦安市役所10階 協働会議室

3. 出席者 (委員) 関谷会長、野田副会長、友利委員、牧野委員、
相原委員、奥山委員、小島委員、川田委員、森島委員
(事務局)高柳部長、齋藤次長、大塚課長、飯塚係長、森主事

4. 議事次第

(1) 令和8年度会議開催スケジュールについて

5. 報告

(1) 第4期浦安市市民参加推進計画(素案)意見募集結果について

6. 配布資料

(会議資料)

資料4-1 令和8年度委員会開催スケジュール

資料4-2 第4期浦安市市民参加推進計画(素案)意見募集結果

資料4-3 第4期浦安市市民参加推進計画(案)

資料4-4 第4期浦安市市民参加推進計画(案)概要版

7. 議事概要

<議題>

(1) 令和8年度会議開催スケジュールについて

■説明(事務局)

事務局より資料4-1について説明を行った。質疑はなく、資料のとおり承認いただいた。

<報告>

(1) 第4期浦安市市民参加推進計画(素案)意見募集結果について

■主な意見

委員：第4期浦安市市民参加推進計画の策定後、市民にはどのように周知するのか。

事務局：策定後、浦安市のホームページにて公表するほか、市役所

10階の情報公開室及び中央図書館に配架する。また、4月末の市民まつりにて、ブースを設け、計画をはじめとした市民活動について、市民に広く周知する予定である。

委員：多くの自治体が盛んにイベントを行っている中で、具体的にどう自治会と連携していくのか。

事務局：自治会は大きな地域コミュニティの一つなので、積極的に連携を図っていく必要がある。現在、自治会集会所の有効活用について検討している。進展があれば、会議で報告させていただく。

委員：この計画の冊子をシニアクラブ会館に1冊ずつ置かせてもらいたい。また、ベイシニア浦安単位クラブ会長会議にて、この計画について説明していただきたい。

事務局：老人クラブの担当課と調整をしたうえで、進めていきたい。

委員：計画の中に行政資源のみではニーズに対応できないことから、市民のまちづくり団体に協力を求めていると書いてあるが、過去の取り組みから得られた成果の事例をいくつか教えていただきたい。また、明らかになった課題を検証した結果、計画に反映したことを教えていただきたい。

事務局：課題としては市民活動団体が増えておらず、その要因の一つとして、活動されているメンバーの固定化や高齢化があげられる。このことから、第4期浦安市市民参加推進計画ではそういった課題を踏まえ、新たな活動の担い手というところで、市民活動センターをはじめ、市民大学と社会福祉協議会のボランティアセンターと連携をし、担い手の育成に力を入れ、市民活動団体が活性化する取り組みを進めていきたいと考えている。続いて、成果については、先日まちづくり活動プラザにて開催したまちづくりフェスタwithの例が挙げられる。そこでは様々な団体が催し物をしたり、ワークショップを行ったり、各団体が自分たちの紹介を行い、小さなお子様から高齢の方まで1,000人以上の方が来場し、団体同士だけではなく、地域の方との交流する機会づくりになった。イベントの様子もJ:COMで放送さ

れたことから、多くの方の目に触れたのではないか。

委員：まちづくり活動が継続する中で、課題が明らかとなり、その結果を踏まえて、さらにまちづくりを発展させるために、第4期浦安市市民参加推進計画の目玉として新たに行うことがあれば教えていただきたい。

事務局：補助金制度について、より団体が使いやすい制度にしようとして検討している。資料4-3の26ページの取り組み事項①まちづくり活動補助金制度の見直しで記載している。

委員：資料4-2の実施時の周知方法のところで、視聴数が記載されているが、他の案件と比較してどうなのか、視聴してもらったための考えもあわせて教えていただきたい。

事務局：今年度の件数は9件あり、平均視聴回数の201回と比べると低くなっている。多くの方に視聴してもらったために、計画に記載のとおり、情報提供の改善を図っていく。また、委員の皆様のご意見も踏まえ、検討していきたい。

委員：視聴回数のところで、同じ人が視聴しても回数はカウントされるのか。

事務局：仕様上その通りだと考える。

委員：他のSNSは活用しないのか。

事務局：内部の規制があり、パブリックコメントの周知では使用していないが、まちづくりフェスタwith等のイベントの周知では活用しているところである。

委員：私自身、SNSを見てまちづくりフェスタwithに参加した。若い世代はSNSを使っている人が多いので、パブリックコメントなどもSNSを活用すれば、若い世代にも広がっていくのではないか。

事務局：検討させていただく。

委員：市民活動センターやボランティアセンターについて、現状や課題を中心にお話しいただきたい。

委員：市民活動センターの現状について、登録団体数の減少が課題という考えもあるが、必ずしもそうではないと考える。活動が軌道に乗ったから登録しなくなった団体や、浦安という土地柄、転勤などで人が異動してしまうことがある。市民活動センターとしては、様々な支援に加え、イベントを実施することで一般の方に体験や交流を通じて市民活動を知ってもらえるよう努めている。また、地域の企業やスポーツチームを巻き込んで団体の担い手として活動いただいている。例えば、市内のラグビーチームに古着回収のご協力をいただいたり、市民団体が結婚式場に足を運んで公園整備の協力を依頼したり、市民活動センターとしてできる仕掛けは行っているところである。

委員：市民大学でeスポーツの講座を取り入れてみるのはどうか。認知症予防に有効というエビデンスもあり、年齢に関わらず参加できることから、世代間の交流が促せるのではないか。また、SBC東京医療大学をはじめ、地域の大学との連携を活かしてボランティアを募ったり、スポーツチームと連携して広報を行ったり、アピールの仕方が重要である。

事務局:eスポーツについては、ベイシニアでも大会を開催しており、浦安市として取り入れたいと担当課が視察に来たところである。実際、子どもにも人気なので、地域連携につながるのではないか。

委員：社会福祉協議会のボランティアセンターの現状について、登録団体は21団体となっており、増減を繰り返している。活動としては目の不自由な方に対して、広報誌を音読して聞かせる朗読ボランティアや、耳の不自由な方に手話通訳を行う活動をしている。気軽に困っている人にお手伝いできないかということで最近人気が出ているのは傾聴活動。高齢者施設や、障がいのある方のお宅に訪問してお話し相手になるという活動である。個人登録者としては、100人増えれば、100人やめるといったところで、入れ替わりが激しい。現在の傾向としては、若い人たちはグループに属さず、

イベントの手伝いに参加したり、災害ボランティアの数が
増えたりといったことが見受けられる。また、ボランティ
ア活動の啓発として年に1回ほど、ボランティア連絡協議
会と共催してボランティアフェスティバルを開催している。

委員：活動自体は素晴らしいが、市民参加を適正にするために、
参加したくてもできない市民に参加してもらえるように考
えるのがこの会議の目的の一つではないか。もっと多くの方
に足を運んでもらうためにはどうすればいいのかを議論
すべき。参加者を増やすためにどのように工夫しているの
かお聞きしたい。

委員：ベイシニア浦安では市民参加推進計画に基づいて事業の活
動計画を立てている。事例から言うと、先ほどのeスポーツ
や吹き矢大会、ダーツ大会にいちよう学級の方から参加し
たいと声がかかったことから、小中学校校長会に出向い
て、子どもや保護者の方たちとベイシニア浦安の連携を進
めていき、市民参加の推進を図っていきたいと考えている。
認知症の関係団体などにも声かけをしたいと考えている。

委員：出向くというのが素晴らしい活動だと思う。

委員：公民館にチラシを置くだけというのは自己満足である。紙
媒体やホームページだけではなく、直接出向いて参加を募
らないと集まらない。

委員：人が集まるためのバックアップを市は行うべきである。

事務局：ただ待つだけではなく、イベント等に出向いて周知してい
く。4月の市民まつりにも参加し、ブースを設けて市民活
動についてPRを行っていく。

全ての議題及び会議の議事録については会長一任とすることを承認いた
だき会議を終了した。